

第1回 兵庫県域の大阪湾ベイエリア活性化推進協議会 議事要旨

日 時：令和4年5月23日（木）14：30～15：50

場 所：兵庫県公館

出席者：兵庫県知事、神戸市長、尼崎市長、西宮市長、洲本市長、芦屋市長、
南あわじ市長、淡路市長

○各市の課題

(1) 神戸市

- ・これまでベイエリアという視点での活性化のアプローチはなかったと思う。
- ・個別の法律に基づく制度の制約を乗り越えるとともに、人口減少時代での雇用重視を基本に見据え、民間企業や学会等の知恵をいただき、ベイエリア全体の活性化を図るという取組は共感を覚える。
- ・ウォーターフロントの再整備は、新港突堤での施設整備、三ノ宮周辺の再開発など既に取組を進めている。
- ・一方、ポートアイランド、六甲アイランドでは過去からコンテナターミナルとしての役割を果たしているが、リボーンが求められている。
- ・神戸空港のさらなる利活用や、水素エネルギーの利活用、化石燃料から陸上電力供給設備への変更、須磨海岸の活性化にも取り組んでいく。
- ・大阪湾岸道路西伸部の整備が進み、神戸空港連絡橋4車線化にも着手しており、陸海空の交通結節機能の強化にも取り組んでいる。
- ・神戸の取組を通じて、大阪湾ベイエリア全体の活性化につなげてもらいたい。

(2) 芦屋市

- ・芦屋浜は昭和54年に入居開始し43年が経過、高齢化が著しくオールドニュータウン化している。
- ・南芦屋浜は平成10年に入居開始しているが、まだ未利用地があり、さらなる交流と回遊性のある賑わいが求められている。
- ・最近クルーザーが大型化しており、南芦屋浜のマリーナでは対応できていないので、係留施設の改修を行いたい。
- ・芦屋浜と南芦屋浜の間にある水路（チャンネルパーク）で、動力を持たないカヌーやカヤック、サップ等のマリンスポーツを推進したい。
- ・海上観光として阪神間の夜景クルーズや、南芦屋浜マリーナを拠点にした観光地巡りや万博会場へのアクセスにも活用していきたい。

(3) 西宮市

- ・甲子園浜は自然の砂浜が残っており、しっかりと保全していきたい。
- ・甲子園より南には様々な市民のスポーツの憩いの場があるが老朽化もしており、パークPFIなど民間ノウハウを活用していきたい。

- ・名神湾岸連絡線の整備により、西宮浜に JCT ができるが、現在、西宮浜にある約 190 社のうち 20~30 社が移転になる可能性がある。できれば西宮浜や近くで引き続き産業を営んでいただきたい。
- ・新西宮 YH、須磨海岸ともコラボしながら海の玄関口としての魅力アップに取り組んでいきたい。

(4) 尼崎市

- ・臨海部は工業専用地域であり、企業の活力を生み出す土地である一方、21 世紀の森を通じた環境再生の取組や、防潮堤整備など自然災害に備える拠点としての役割もあり、SDGs を体現する実験場ともいえる。産業や環境面で活性化をしていきたいが、そのためには規制緩和が必要。
- ・臨海部の末広地区と東海岸町地区への行き来は、国道 43 号を通る必要があり、南北交通の慢性的な渋滞の原因になっている。また、末広地区には 21 世紀の森、東海岸町地区にはのびのび公園があるが、それらの賑わいが分断されている。東西を行き来できる道路の整備をお願いしたい。
- ・尼崎運河を活用したクルーズや環境学習をすとしても、様々な障壁があり、取組が進まない状況である。

(5) 淡路市

- ・市外から 34 社が立地している。
- ・夢舞台サスティナブルパークにパソナグループを誘致した。
- ・西海岸はパソナグループやバルニバービ等により交流人口や雇用が増加しており、高速バスの新路線ができる等、賑わいが生まれている。
- ・観音像跡地、夢舞台高台用地の活用として、万博のレガシー継承を展開できないか考えている。
- ・交流の翼港や津名港の活性化をしていきたい。
- ・島内の 2 次交通の強化が必要と考えている。

(6) 洲本市

- ・自然環境や地理的条件を活かしていくしかないと考えている。
- ・海をテーマにして発展性を考えていただく事はありがたい。
- ・観光や癒やし、海を使ったスポーツ等、何か促進できないか。
- ・深日洲本航路は国の支援を得て、今年も含め、今後 3 年間は夏期間の土日祝を中心に運航することになっている。対岸側との航路は大切な要素である。
- ・将来を考えると、関空からの定期航路を洲本まで呼び込みたい考えであり、洲本温泉という資源を活用できればと考えている。

(7) 南あわじ市

- ・万博の時には、淡路島全体を美食の島として打ち出したい。
- ・鳴門海峡を核とした広域観光圏の形成を目指している。大鳴門橋自転車道の整備も踏まえ、大鳴門橋周辺の観光やレクリエーション施設の整備を進めている。
- ・島全体として、2次交通が非常に弱い。事実上バスしかないので、バスの利便性を高めることを考えている。高速道路PAからコミバスに乗り継ぐことや、レンタサイクルやカーシェアリングも考えていく必要がある。
- ・花みどりフェアの時は、県の支援でバス便を出したが、万博時には同様の支援をお願いしたい。また、宿泊施設が所有するバスの転用が難しいので、規制を緩められないかと考えている。
- ・インバウンドに対応した案内表示板が整備されていないので、島全体で取り組めないか。
- ・外国人に対応するガイドの育成も課題。
- ・淡路島総合観光戦略の改定ともあわせた検討をしていきたい。

○意見交換

県：幾つかキーワードがあった。マリンスポーツ、アクティビティ等ソフト面の活性化をするにあたって規制があるという話があった。

尼崎：運河クルーズを年間通じて提供できるプログラムにしたいが、年間数回のイベントなら実現出来ているが、通年になるとハードルが高くなる。

工業専用地域としての規制がある。物流倉庫に市民が集うスペースを作ろうとしても規制が邪魔になっている。

西宮：マリンスポーツ等は、地域の皆をターゲットにするか、万博にクルーズ船で来るような人をターゲットにするか、総合的に考えていければと思う。

サップや水上バイクなどが錯綜すると危険なので、海上の交通整理をお願いしたい。

富裕層がYHから淡路島を経て尾道に行くような場合、シェアヨットの取組など後押ししてもらえればと思う。マリンスポーツ一つとっても2、3の柱が出てくる。

洲本：海をフィールドにできるボートの競技（アクティビティ）として、コースタルローイングがある。その環境として、大阪湾は非常にいい。

また、国によって概念は異なるが、ハウスボート（キャンピングカーの船版）というスタイルのものもあり、大阪湾のマリンレジャーとして面白いのではないか。

芦屋：西宮YHは50ftのヨットが入るが、南芦屋浜は入れないし、あまり賑わうと住環境面に影響がでる。

西宮：淡路島と阪神間でコラボできる所もあれば、そうではない部分もある。

阪神間は土地が限られている。限られた土地をどう活用していくか一緒に進めていただきたい。最近では物流倉庫がどんどん出来てしまう。何が出来ればハッピーなのか、産業の集積と、環境の保全等、色々な切り口がある中で、一緒に考えていきたい。

県：土地の利用をどうしていくかは大きなテーマ。県市で所有地が隣接している地域もあるので、連携してやっていきたい。地元の活性化につながることをプロジェクトとして立案していきたい。

尼崎：尼崎西宮芦屋港の港湾計画改定が仕上げの時期と思うが、ベイエリアの基本方針とはどういう関係になるのか。

事務局：基本方針の中身は港湾計画ともリンクさせていく。

県：ベイエリアで進める議論は、港湾計画とも連携させていく。連携という意味では、土木部や産業労働部など色んな分野との横の連携が大事になる。

芦屋：兵庫五国を意識し、ベイエリアから五国にどう広げていくかという意識もあれば良いと思う。

神戸：誘客をどうするか、色んな切り口で考えていこうという話があった。誘客をするためには、広域交通の充実が大事。港の活用、関西空港とのアクセスを含めた海上交通をどう具体化していくかという観点からの議論もお願いしたい。

自然環境が恵まれているエリア、海洋環境の保全、SDGsの視点も重要と思う。これから検討が進められていく事に期待したいし、各自治体も一緒に参画していきたい。

県：今日はヨットやマリンスポーツに絞った議論になったが、海上交通の問題、土地利用の問題も含め、色んなテーマをやっていく。各市が抱えている課題や、資源を活かしていきたいという話を共有できた事は大事な機会だったと思う。横串に刺すと解決策や可能性が広がる事もある。これから方向性を見いだしていくので、よろしく願います。

以上